

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：33501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00570

研究課題名(和文)チベット・ビルマ語派ルイ語群における借用語の研究

研究課題名(英文)A study of loan words in the Luish group of Tibeto-Burman

研究代表者

藤原 敬介 (HUZIWARA, Keisuke)

帝京科学大学・総合教育センター・准教授

研究者番号：00569105

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：チベット・ビルマ語派ルイ語群にみられる借用語の諸相を研究した。特にチャック語の借用表現について、バングラデシュの公用語であるベンガル語、チャック語がはなされるチッタゴン丘陵地帯の共通語であるマルマ語との関係を中心に研究した。他方、ルイ語群の中でもビルマではなされるカドゥー語やガナン語において、他言語からの動詞の借用でのみ確認される特別な標識について、同系のチャクパ語だけでなく、ネパールのチベット・ビルマ諸語の一部においても類似したものがみられることを報告した。また、インド・アーリア諸語に顕著にみられる相関関係文について、チベット・ビルマ諸語での状況をまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド・アーリア諸語に顕著にみられる相関関係文が、チベット・ビルマ諸語にも分布することをしめし、特徴を分類した。インド・アーリア語のように相関詞を使用するだけでなく、漢語のように疑問詞を使用するものも広範に分布していることをあきらかにした。また、動詞を借用したときのみみられる特別な標識が、ビルマのルイ語群の言語だけでなく、ネパールのチベット・ビルマ諸語の一部にもあることをしめした。以上は従来注目されておらず、学術的意義がある。言語の系統や地域をこえて類似した特徴が分布することを分析することにより、当該地域の歴史や民族の移動を考察する上でも新たな視点を提供する可能性があり、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：I conducted a study on the various aspects of loanwords observed in the Luish group of the Tibeto-Burman language family. The research focused particularly on loan expressions in the Cak language, examining its relationship with Bengali, the official language of Bangladesh, and Marma, the lingua franca of the Chittagong Hill Tracts where Cak is spoken.

Additionally, I reported on a special marker observed exclusively in verbs borrowed from other languages in Kadu and Ganan, languages spoken in Burma within the Luish group. Similar markers were also found not only in Chakpa, a related language, but in some Tibeto-Burman languages of Nepal. Furthermore, I summarised the situation of relative-correlative constructions, which are notably prevalent in Indo-Aryan languages, within the Tibeto-Burman languages.

研究分野：言語学

キーワード：言語学 歴史言語学 借用語 チベット・ビルマ語派 ルイ語群 マルマ語 ベンガル語 チャクマ語

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

借用語研究は、「言語はどのように変化するか」という一般言語学的な問いに通じるものであるとともに、言語の歴史的研究を遂行するさいにも重要な研究課題である。なぜならば、ある言語における語彙が本来語であるか借用語であるかを峻別することができなければ、たしかな祖形を再建することができないからである。

筆者はこれまでにチベット・ビルマ語派ルイ語群に属するチャック語、カドゥー語、ガナン語、チャクパ語などを調査し、共通する祖形の再建にもとりくんできた。ただし、借用語のあつかいが十分であったとはいえない。また、文法面の借用についてはほぼてつかずであった。以上が本研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究においては、チベット・ビルマ語派ルイ語群を対象に借用語を研究する。チベット・ビルマ語派ルイ語群の諸言語は、北ビルマからインド・インパール盆地、そしてバングラデシュ・チッタゴン丘陵とビルマ・ラカイン州にかけて離散して分布している。したがって、共通する本来語とはべつに、それぞれの言語においてそれぞれに借用状況が異なっている。本研究では、「チベット・ビルマ語派ルイ語群の諸言語がはなされる地域における借用類型はどのようなものであるか」というおおきな問いを解明することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究においては、チベット・ビルマ語派ルイ語群に属するチャック語、カドゥー語、ガナン語、チャクパ語を対象に借用語を調査する予定であった。しかし、2020年からのコロナ禍により、海外で十分な隣地調査をすることができなかった。そのため、オンラインでもある程度の調査が可能であるチャック語とマルマ語、そしてチャクマ語を中心に調査をすすめた。ちょうどこの時期に、東京外国語大学の風間伸次郎教授による文法調査票(以下「風間調査票」と略する)が公開されたので、それを活用してチャック語とマルマ語の文法調査をおこなった。

4. 研究成果

チャック語については、数詞にみられる不規則な形式を考察した。チャック語を内的再建によって精査し、ほかのチベット・ビルマ諸語とも比較することによって、祖形として鼻音接頭辞を仮定することによって解決可能であることをしめした。このほか、いわゆる「精巧表現」について、マルマ語からの借用形式とチャック語の本来語形式とがあることをあきらかとした。また、近年発表されたチャック文字のユニコード化をめぐる問題について学会発表をおこなった。さらに、コロナ禍がおちついてきた2024年2月にはバングラデシュに渡航し、風間調査票の項目について半分程度を確認することができた。

チャック語に対する借用語の一大供給源であるマルマ語については、オンラインで公開されているアニメについて語釈をつけて分析したほか、東京外国語大学の風間伸次郎教授による調査票をもちいて文法調査をおこなった。その結果、マルマ語の文法は、特に形容詞の語順について、ベンガル語からの影響がつよくあることがわかってきた。そして、同様の傾向がチャック語にもあることがはっきりしてきた。

チャック語に対する借用語のもう一つの供給源であるベンガル語については、風間調査票の全項目を調査したほか、チッタゴン方言の話者と東京で対面調査をすることができたので、基本的な語彙と文法の調査をおこなった。

コロナ禍によりビルマでの調査が困難となったかわりに、チャック人と関連がふかいさいわれるチャクマ人がはなすチャクマ語について調査をおこなった。そして、チャクマ語は言語的にはインド・アーリア語であるけれども、文法面ではチベット・ビルマ語的な要素があることがわかってきた。中でも、日本語の「のだ文」に類似した構文が存在することを発見し、学会発表をおこなった。

カドゥー語とガナン語については、コロナ禍以前に調査できた内容を発表した。モーラン・カド

ウー語の音韻論についての発表と、モーラン・カドゥー語のとなりではなされるモーカー・カドゥー語の概要についての発表である。また、ガナン語にみられる音節末閉鎖音付加という現象を論文にまとめたほか、類似する現象がネパールのチベット・ビルマ語の一部にもみられることを報告した。このほか、カドゥー語とガナン語にみられる、他言語から借用された動詞にのみみられる特別な標識について、類似した標識がチャクパ語にもみられるだけでなく、ネパールのチベット・ビルマ語の一部にもみられることを報告した。

このほか、借用表現にかかわる問題として、インド・アリア諸語で特徴的といわれる相関関係文 (Relative-correlative construction) について、チベット・ビルマ諸語における状況を論文にまとめた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 HUZIWARA Keisuke	4. 巻 87
2. 論文標題 The addition of syllable-final stops in Ganan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 189-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/S0041977X23000952	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 28
2. 論文標題 マルマ語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 16
2. 論文標題 マルマ語の民話「マノフリ王女」 バングラデシュ・チッタゴン丘陵の羽衣伝承	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 127-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 15
2. 論文標題 チベット・ビルマ諸語における相関関係文	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 131-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 15
2. 論文標題 チャクマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 105-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 26
2. 論文標題 ベンガル語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語学研究所論集	6. 最初と最後の頁 359-438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117386	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 14
2. 論文標題 マルマ語版・ミナ「ニワトリを数えておけ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 211-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 39
2. 論文標題 モーラン・カドゥー語音韻論の概要	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都大学言語学研究	6. 最初と最後の頁 59-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/261912	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 9
2. 論文標題 チャック語の '10' とルイ祖語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史言語学	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 HUZIWARA Keisuke	4. 巻 1
2. 論文標題 On the genetic position of Chakpa within Luish languages	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Languages and Peoples of the Eastern Himalayan Region	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5070/h91150999	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原敬介	4. 巻 13
2. 論文標題 マルマ語版・ミナ「私は学校がすき」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語記述論集	6. 最初と最後の頁 317-354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 The Cak script and Unicode
3. 学会等名 The 8th AAS-in-Asia Conference (慶北大学校・韓国) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 Loan verb markers in Tibeto-Burman
3. 学会等名 The 26th Himalayan Languages Symposium (INALCO, Paris, France) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 Nominalisation in Chakma
3. 学会等名 The 37th South Asian Languages Analysis Roundtable (Department of Asian and North African Studies, Ca' Foscari University of Venice, Italy) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 Post-nasal fortition in Luish
3. 学会等名 The 56th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand; Online) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 チベット・ビルマ諸語における音節未閉鎖音付加
3. 学会等名 アジア諸言語の接触と変容：通時的・共時的観点からのアプローチ2023年度研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 Elaborate expressions in Cak
3. 学会等名 The 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (Kyoto University) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 チャクマ語における名詞化とその周辺
3. 学会等名 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会(京都大学文学部羽田記念館)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 チベット・ビルマ諸語における相関関係文の地理的分布
3. 学会等名 日本地理言語学会第三回大会(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 ジンポー語とルイ諸語の声調対応
3. 学会等名 第3回カチン研究会(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 チャック語の精巧表現
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語コンソーシアム年次総会（京都大学文学部羽田記念館）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 カチン州のカドゥー語とガナン語
3. 学会等名 第2回カチン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤原敬介
2. 発表標題 チベット・ビルマ諸語における借用語動詞標識
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 HUZIWARA Keisuke
2. 発表標題 A brief introduction to Mokha Kadu
3. 学会等名 The 53rd International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------